

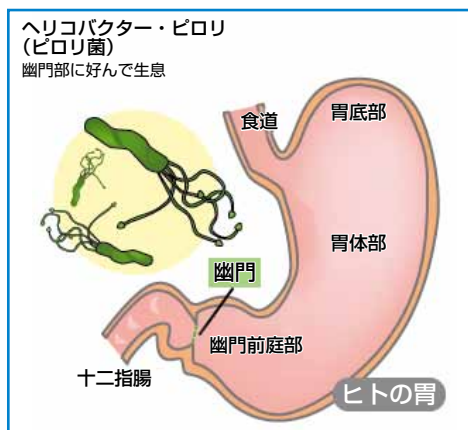
『胃ガンについて』

山本組合総合病院 消化器内科

鳥谷 洋右

皆さん、最近よく『ピロリ菌』という言葉を目にする機会が多くなってきているのではないのでしょうか？消化器科の外來では、テレビや新聞、または近くの人からピロリ菌を除菌したことを耳にして、あるいは除菌を進められて外來を受診される方が大変増えて来ています。

ピロリ菌はヒトの胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの炎症性の疾患や胃ガン、リン



パ腫（血液のガン）の発症に密接に関連した病原細菌です。以前から、胃潰瘍や早期胃ガンの治療をした患者様に対しては、再発予防のためにピロリ菌の除菌は行われていました。2013年2月から胃潰瘍や胃ガンの前段階である慢性胃炎にも保険適応となり、このことがより皆さんがピロリ菌について耳にする機会が多くなった理由と思われる。ピロリ菌が感染したらずぐにガンになる訳ではなく、長期にわたる感染が原因で生じる慢性胃炎がその原因であり、ピロリ菌の除菌によつて胃ガンの発症が減少することが期待されています。（ピロリ菌を除菌するためには、症状がない方でも必ず内視鏡検査を受ける必要があります。）

また、ピロリ菌意外にも、塩分の多い食べ物や、喫煙は胃ガンの危険を増加することが知られています。

胃ガンは現在でも死亡原因の上位を占める病気ですが、早期で発見され、完全にガンを切除できた場合の治療率は



9割を超えています。以前は手術によつて治療されていた早期胃ガンも、条件を満たせば内視鏡での根治治療が可能となり、手術においても腹腔鏡を使用した、より体に負担の少ない治療が標準的となっています。しかしながら、発見された段階によつては、治療が難しいことは現在でも変わりはありません。

胃ガンの治療にあたって、最も重要なのは早期の発見です！胃ガンの患者さんは痛みや不快感、血を吐くことや便が黒くなるなどの症状があります。これらの症状は胃炎や胃潰瘍など良性の病気が原因の場合もありますが、症状がある場合はまず病院を受診す

ることが大切です。また40歳以上を対象にX線検査を主体とした胃ガン検診が市町村ごとに行われていますし、病院で行われている人間ドックでは、希望によつて内視鏡の検査やピロリ菌の感染の有無についても調べることが可能です。検診は症状のでないうちにガンを発見できるといいうメリットがあります。年に1度は、職場や市町村、または病院での検診を受けることで胃ガンの早期発見、早期治療を目指しましょう。

ご質問やご相談はお気軽に山本組合総合病院
(TEL: 52-3111)

まで、ご連絡ください。

